

『杜子春』を読んで
 三年〇組 〇〇〇〇
 杜子春の心は未熟でした。人として何が一番大切なのかを知りませんでした。心の修業をするかしないかで、人間はどれだけでも変わるものです。
 お金持ちの家に生まれた杜子春は、お金はあつてあたり前と思つていたのでしよう。だからぜいたくをしてお金を使えばお金がなくなることを知らなかったのだと思います。杜子春がお金の価値を知っていたら、貧乏になることもなかったはずですよ。それにしてもなぜ、人間はお金に弱いのでしょうか。
 お金持ちの人や、権力のある人にお世辞を言つたり、ゴマをすつたりする人がいます。お金持ち、権力のある人が必ずしも立派な人とは言えないはずなのに、不思議です。人と人との心をつなぐのは、お金とか権力じゃないですか。優しい気持ちと思いやりが人と人との心をつなぐのではないのでしょうか。

読んだ本

『杜子春』芥川龍之介

あの人はお金持ちだから、一緒にいると得になる。そんな気持ちでいる人は、杜子春のお金がなくなるとたん知らん顔をします。心と心のつながりがないから、お金もなくなつて、家もなく、ご飯も食べることのできなくなつた杜子春を見捨ててしまうのです。本当の友達なら、困った時こそ手を差し伸べてあげるはずです。杜子春には、本当の友達がいなかったのです。でも杜子春も人々におだてられ、みんながどんな気持ちで自分の側にいるのか、見ぬけなかつたのです。みんなにおだてられいい気になつて、心と心をつなぐ一番大切なものを忘れていたのです。

仙人に二度お金持ちにしてもらい、そのたびに貧乏になつた杜子春は、お金がどんなものであるか知りました。人の心も知りました。「落ちぶれて、人のたもとにすぎる時、その人の心ぞ知る」と、いつもひいおばあさんに聞きます。私も本当にその通りだと思いません。

の言葉でした。鉄のムチで打たれ、肉はさけ、
 そんな杜子春の心を救ってくれたのが、母
 人達と同じ、卑しい心でした。
 お金持ちだと近寄り、貧乏だと知らん顔する
 が強かったのです。この時の杜子春の心は、
 たい気持ちよりも仙人になりたい気持ちの方
 子春も辛かったはずですが、両親を助け
 たのでしよう。両親の苦しむさまを見て、杜
 かった杜子春です。心の中では何と思ってい
 苦しんでいる両親の姿を見ても、声を出さな
 仙人になるため鬼どもに鉄のムチで打たれ
 い。そう考えたのだと思います。
 り返しよりも、仙人になって気楽にすごした
 貧乏になっては捨てられる。そんなことのく
 思います。お金持ちになってチヤホヤされ、
 て楽に生きてい。そんな程度のものであったと
 りたいと言った杜子春の心は、「仙人になっ
 しかし、お金持ちになるよりも、仙人にな
 とができた杜子春は、成長できました。
 お金というもの、人の心というものを知るこ

骨はくだけ、息はたえだえになっ
 ていながら、子供の幸福を願
 う母の心にふれた時、杜
 子春はすべてをさとりまし
 た。人が人間らしく生きてい
 くのに必要なもの。もちろ
 んお金も大切ですが、生き
 たお金を使わなければ、お
 金は、人の心を乱す道具に
 かなりません。どんなに苦
 しくても、我が子の幸福だ
 けを願う母の愛にふれて、
 杜子春は生きていくのに何
 が大切なのか気付きました。
 いろいろな経験を積んだ杜
 子春ですが、最後に母の愛
 にふれて、やっと人間らしい
 心をもつことができたので
 す。心は形もなく、目で見
 ることもできません。でも、
 優しい心をもっていれば、
 きっと人を大切に思うこと
 ができると思います。平凡
 に生きることのできる幸福、
 人として美しく生きること
 を選んだ杜子春です。いつ
 のまにか仙人になって泰山
 のふもとで今も畑を耕しな
 がら、ひっそりと生きている
 のかもしれません。